



中央市民病院ニュース No.90

INDEX

新年のご挨拶	1	地域連携懇話会ご参加のお礼	7
IBDセンターを設立しました	2	地域連携のお知らせ	9
第46回日本中毒学会総会・学術集会開催報告と御礼	4	100周年記念市民公開講座	11
千里メディカルラリーに参加しました	6	患者さんをご紹介いただく際は	12

新年のご挨拶

神戸市立医療センター中央市民病院 病院長

木原 康樹



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

地域医療機関の先生方には旧年中大変お世話になりました。心から感謝申し上げますとともに本年一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

当院は昨年3月に創立100年を迎え、7月14日には連携登録医の先生方をはじめ各界400名の皆さまをお迎えして「100周年記念式典・講演会・祝賀会」を挙行了いたしました。

長年に亘り先生方から当院の活動に多大なご支援をいただき続けた結果として今日があることを強く実感した一日でありました。

当院の使命の一つである「救急医療」については、厚生労働省「全国救命救急センター評価」において昨年も記録を更新し10年連続の第1位を維持することができました。この評価はむろん当院だけで達成できるものではなく、二次救急の分担や早期転院の受け入れ等、先生方との協働である地域完結型医療が評価されたものと感謝しております。

当院の地域連携・患者支援部門は、昨年4月より従来の「地域医療連携センター」を「患者総合支援センター」に名称変更するとともに、患者さんの入退院のみならずその後綿々とした病診連携も含めて切れ目のない活動を行えるよう体制の構築に取り組んでおります。

患者総合支援センターは当院にて新たに稼働したVCC(ボリュームコントロールセンター;全病床の可視化による管理システム)を活用して、更なる病床管理や手術室の効率化に取り組んでおり、ご紹介いただいた患者さんをより円滑に受け入れられるよう努めております。その他、病院救急車の導入と病院救命士による搬送業務の本格運用もまもなくです。この急性期連携には、もとより先生方とのより緊密な連携が不可欠です。

11月21日に開催した当院地域連携懇話会では300名を超える多くの方々にご参加いただき、直接顔の見える連携の場として盛況のうちに会を終えることができましたことにも御礼申し上げます。また来る2月15日には、創立100周年を記念した市民公開講座を開催いたします。循環器内科や整形外科の医師による教育講演の他、特別講師としてラグビー元日本代表の大畑大介氏をお招きしご講演いただく予定です。地域の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

本年も地域で連携をいただける先生方のご要望やご期待に応えられるよう一層の努力を重ね、市民の病院としての役割を果たして参ります。

最後になりましたが、皆様の今年一年の御清栄と御健勝を祈念申し上げます。

IBDセンターを設立しました

IBDセンター長・消化器内科医長 井上 聡子

炎症性腸疾患(inflammatory bowel disease:IBD)は主に、潰瘍性大腸炎とクローン病を指し、近年、本邦でも患者数が著明に増加しています。当科では、2023年に潰瘍性大腸炎275名、クローン病127名の診療を行いました。IBD診療を充実させるため、2024年10月1日IBDセンターを設立しました。

(1)IBDセンター

IBDは長らく5-アミノサリチル酸製剤、ステロイド、チオプリン製剤で治療していたところ、最初の生物学的製剤として2002年にクローン病に対して抗TNF- α 抗体インフリキシマブが承認されました。これを皮切りに、特に2018年以降、作用機序が異なる新規薬剤が続々と承認され、治療の選択肢が増えました(図1)。

図1:潰瘍性大腸炎の治療

1. 薬物治療

- 基本治療
 - ・5-ASA製剤 (サラソスルファピリジン、メサラジン3種)
 - ・ステロイド剤
 - ・チオプリン製剤 (アザチオプリン)
 - ・カロテグラストメチル
- ステロイド依存性・抵抗性潰瘍性大腸炎では
 - ・カルシニューリン阻害剤 (タクロリムス)
 - ・JAK阻害剤 (トファシチニブ、フィルゴチニブ、ウパダシチニブ)
 - ・抗TNF- α 抗体 (インフリキシマブ、アダリムマブ、ゴリムマブ)
 - ・抗 $\alpha 4\beta 7$ インテグリン抗体 (ベドリズマブ)
 - ・抗IL-12/23p40抗体 (ウステキヌマブ)
 - ・抗IL-23p19抗体 (ミリキズマブ、リサンキズマブ)

2. 血球成分除去療法

3. 外科的手術

これらの薬剤は、厚生労働省難治性疾患研究班の「潰瘍性大腸炎・クローン病治療指針」では横並びに

記載されていますが、実際は現在の炎症の程度や治療歴によって使い分けており、時に専門的な判断を要します。

当センターではIBD専門医が中心となり、一人一人に最適な治療を検討します。上下部消化管内視鏡の他、カプセル内視鏡で小腸病変の評価を行います。またダブルバルーン内視鏡を用いて、クローン病の小腸狭窄に対して内視鏡的バルーン拡張術を行っています(図2・3)。

さらにIBD合併症の関節症状や皮膚症状については、膠原病・リウマチ内科や皮膚科と緊密に連携します。また膠原病や自己免疫疾患の消化管病変の診療にあたります。また膠原病や自己免疫疾患の消化管病変の診療にあたります。

下記曜日にIBD外来を行っていますので、ぜひ患者さんをご紹介ください。

図2

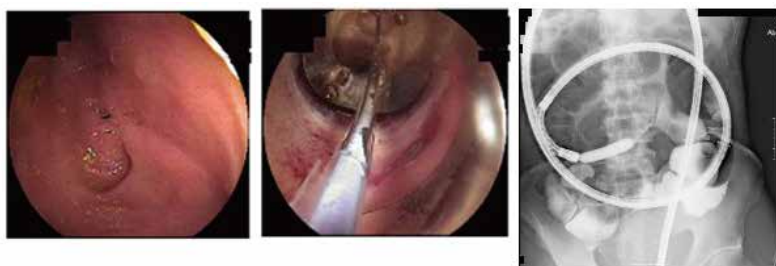


カプセル内視鏡



ダブルバルーン内視鏡

図3:クローン病の小腸狭窄に対する内視鏡的バルーン拡張術



※外来日と担当医 毎週火曜日(井上医師)・金曜日(森久医師)

院外からの予約方法:事前にインターネットまたはFAXで予約してください。(詳細は当院ホームページ「医療関係者の方へ」をご参照ください)すでに他院で治療を開始されている場合は、今後の治療方針を検討するにあたり、これまでの治療歴が大事な情報となりますので、必ず予約をとっていただきますようお願いいたします。



(2) 外来IBD診療の充実

IBDの内科治療が進歩したことによって、入院を要するほど増悪することが少なくなり、複雑な治療も含めて外来診療で治療していくことが増えました。このため当センターでは、外来患者さんについても、多職種でIBD患者さんを支える体制をとっています。

新規治療や自己注射を開始する際に、IBD担当薬剤師が薬剤指導を行います。また管理栄養士による栄養指導も積極的に行います。ご希望の患者さんについては、社会福祉士による療養相談の手配を行います。

(2) 地域のIBD診療の中核となります

当院は、日本炎症性腸疾患学会指導施設に認定されています。IBD診療のすそ野を広げるため、週1回、主に当院若手医師を対象に勉強会を開催しており、他院からもオンラインで参加を受け入れています。また専門医でなくてもIBDの基本治療を行う機会が増えていることから、不定期に、近隣の病院の非専門医向けのIBD研究会を行っています。

地域からご紹介いただいた患者さんについて、治療方針が定まった後は、地域の医療機関で可能な治

療であれば日常の診療をお願いし、当センターでも連携を継続し、患者さんが安心して治療を継続できる体制をとりたいと考えております。

IBDセンターをどうぞよろしくお願いいたします。

第46回日本中毒学会総会・学術集会開催報告と御礼

救命救急センター 有吉 孝一

日本中毒学会はおよそ40年の歴史を持ち、中毒診療の発展と中毒事故・事件の防止に貢献することを目的とした国内唯一の学会です。1,000名を超える会員の構成は医師(救急医、集中治療医、法医学者)のみならず分析や治療に係る薬剤師、臨床検査技師、警察官等が多く占めていることが特徴で、毎年、夏に定期学術集会および総会を実施しており、このたびの第46回総会・定期学術集会を2024年7月24、25日に神戸国際会議場で会長 有吉孝一(救急科)事務局長 田村亮(薬剤部)崎園賢治(臨床検査技術部)の多職種トロイカ体制で主催しました。(図1)



1) 運営スタッフ、「自然毒・抗毒素血清と中毒」シンポジストと閉会後の記念写真

テーマは働き方改革元年を記念し「Ready for Break?」としました。

全力で頑張ればかりいはいざというときに本当の実力は出せない、もっと遊んで柔軟な発想を出そう、休んで余裕を持とう、という思いを込めました。ポスターはテーマに合わせてバカンス風のデザインにしました。(図2)自然毒に関連し、画面中央の人物の足元には血清療法セッションにちなんだ毒蛇がとぐろを巻いています。この人のシャツの柄と周囲に生えている植物は、実は有毒のソテツです。画面上手にはポートタワーなど神戸の遠景が、下手には実際に神戸港から横浜港に出航したダイヤモンドプリンセス号が描いてあります。このポスターから人物と蛇を消して拡大したフォトセッションを会期中メインホール前に用意し、リクライニングチェアとゴム蛇3匹を置きました。(図3)これで参加者にポスター内の人物になってもらおうという余興です。インスタ映え(英語でInstagrammableという)を狙い、学会参加の証拠写真を撮るとともにSNSで拡散宣伝してもらうことが目的です。これも一種のエゴサーチだろうが、参加者のfacebookやX等で学会を楽しんでいる姿をオンタイムで見ることが励みになりました。



◀図2：Ready for Break?のポスター
製作者は成育医療センター小児科
岡嶋貴恵先生（当院研修医OG）

▼図3：フォトセッションでノッてくれる
志賀隆先生（国際医療福祉大学）、
林寛之先生（福井大学）他



特別講演に新千円札のモデルになった北里柴三郎のひ孫北里英郎先生に柴三郎の事績とともに自身の留学経験と研究者の心構えを「A Romanticist and a Gentleman」と題して話していただきました。（図3）また、自殺予防、病院前救護・災害、ER、ICU、拮抗薬・分析、自然毒・血清療法、法医学とそれぞれのシーンに合わせて8つの主題を定め、新進気鋭のプランナーにシンポジウム、パネルディスカッションを企画してもらいました。8つの基調講演は松本俊彦先生、林 寛之先生、中島和江先生、土井研人先生など著名な演者を揃えた。特にパネルディスカッション「中毒・自殺の裏側を考えてみる」では兵庫県医師会から藤田宏史先生（医療法人山西会三田西病院）にご登壇いただきました。

不況で資金集めに苦勞する中、地域の先生方にご参加とご支援賜り厚くお礼申し上げます。医療法人社団さくら会高橋病院様、顕修会すずらん病院様から多額のご寄付を頂きました。ここに御礼申し上げるとともに、おかげをもちまして盛会裏に終えることができたことをご報告いたします。



柴三郎Tシャツを着た北里英朗先生（北里記念館館長）を囲んで。
一三三亨先生（聖路加国際病院 西市民病院研修医OB） 乗井達守先生（ニューメキシコ大学）他

千里メディカルラリーに参加しました

メディカルラリーとは、救命救急を専門とする医師、看護師、救急救命士がチームを組み、限られた時間内にどれくらいの確に診断と治療を実施することができるか、という救命医療技術を競うコンテストです。各チームは出動命令に従って指定された場所へ出動し、限られた時間内で模擬患者さんに対して診察、止血処置、人工呼吸、薬剤投与などの必要な処置を行い、その行為をジャッジが評価・採点します。

大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター主催の“千里メディカルラリー”に当院は第2回大会から参加しており、今年度は令和6年11月3日(日)に、第21回大会が開催されました。毎年、大規模災害や心停止患者への対応、小児科・産婦人科の患者への処置等の幅広い知識を問われますが、今大会は、今年度に発生した能登半島地震や今後想定される南海トラフ地震を想起させるような、災害現場、避難所、被災地の病院支援等のシナリオが多かった印象です。

今大会は全国の病院やJICAから計23チームが参加しており、当院からは救急科専攻医2名、看護師2名、神戸市消防局の救急救命士2名の6名がチーム代表として出場し、2年ぶりの優勝を果たしました。メディカルラリーに向けて勉強・訓練する中で得た知識や技術、病院と消防の連携などを、今後の病院前診療に活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、ご協力いただきました、神戸市をはじめとした消防局の皆様、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。





地域連携懇話会ご参加のお礼

地域連携担当副院長 **川本 未知**

患者総合支援センター参事 **石原 隆**

地域医療機関の皆様におかれましては、日頃より当院の地域連携業務にご支援・ご協力いただきましてありがとうございます。

さて、11月21日神戸ポートピアホテルにおいて開催いたしました令和6年度中央市民病院地域連携懇話会に、お忙しい中多くの方々(322名)にご参加いただき、盛況のうちに終えることが出来ました。ありがとうございました。

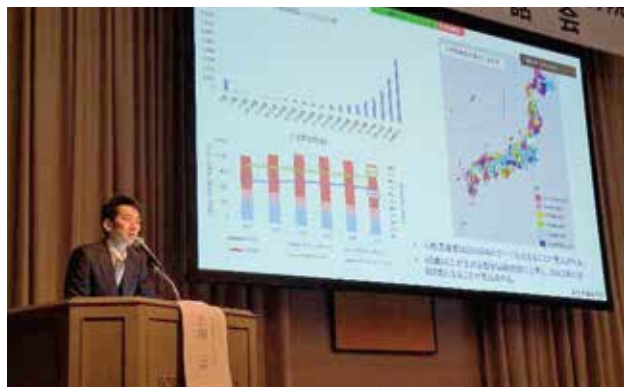
第1部の講演会では、木原院長による開催挨拶の後、「地域で取り組む心不全・呼吸器疾患対策～CURE-KOBE～」というテーマで神戸リハビリテーション病院細谷院長、当院の呼吸器内科立川部長代行、循環器内科村井医長、リハビリテーション技術部岩田技師長代行の4名による講演を行いました。また、新任部長として、呼吸器外科濱川部長、頭頸部外科菊地部長、呼吸器内科立川部長代行、血液内科近藤部長から自己および診療科について紹介させていただきました。



木原院長より開会の挨拶



神戸リハビリテーション病院 細谷院長



呼吸器内科 立川部長代行



循環器内科 村井医長



リハビリテーション技術部 岩田技師長代行

第2部の懇親会では、神戸市医師会堀本仁士会長に開会のご挨拶を賜りました。第1部に続き多くの方々にご参加いただき、当院の職員も日頃中々お会いする機会のない地域医療機関の方々と顔を合わせ、言葉を交わすことができ、今後の地域連携を進めていくに当たり貴重な機会になりました。

お忙しい中ご参加いただきました皆様方には厚く御礼申し上げます。
今後ともご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



III 地域連携のお知らせ

連携登録医にご登録ください

当院では、患者さんが地域で安心して継続した医療を受けられるよう、当院と連携・協力して安全で質の高い医療を提供される市内医療機関の先生方を「連携登録医」として登録する制度を設けています。

連携登録医として登録していただくと

1. 紹介患者さんに対する診療および入院の対応を迅速に行うよう努めます
2. 紹介患者さんの診療記録を当院で閲覧できます
3. 当院の患者さんがかかりつけ医を探される場合に紹介いたします
4. 図書室など当院の施設・設備を利用できます（ご利用になれない施設・設備もあります）
5. 来院時の駐車場料金を無料にします
6. 当院が公開して行う症例検討会、研修会、講演会等に自由にご参加いただけます
7. 病院ニュースやオープンカンファレンス・講演会の開催情報などをE-mailでお送りいたします
8. 「連携登録医証」「インターネット紹介予約システムご利用ID・パスワード」を発行いたします



連携登録医インターネット
予約システム申し込みフォーム

新たに下記の先生方にご登録いただきました。

なお、連携登録医療機関一覧は、当院ホームページにも掲載しております。

中央市民病院の
ホームページ

医療関係者の方へ

患者総合
支援センター

連携登録医

新規連携登録医療機関

R6.8.1～11.30時点 区別住所50音順で掲載しております

区	連携登録医療機関	住所
東 灘 区	河原医院	神戸市東灘区住吉本町2-12-3
西 区	黒木歯科医院	神戸市西区学園西町5-2-2
東 灘 区	甲南山手まゆみ皮フ科	神戸市東灘区森北町1丁目6-15
垂 水 区	ささえ在宅クリニック	神戸市垂水区舞子台8-6-3-302
須 磨 区	笹原歯科医院	神戸市須磨区白川台3-71-7
灘 区	シュタンゲゆかり歯科	神戸市灘区大内通3丁目4-9
灘 区	むらかみ内科クリニック	神戸市灘区八幡町2丁目8-7
東 灘 区	岡田歯科医院	神戸市東灘区西岡本3丁目1-7
長 田 区	藤山クリニック	神戸市長田区大塚町3-1-16
中 央 区	林山クリニック	神戸市須磨区妙法寺字藪中1242
東 灘 区	おおつか内科・消化器科・IBDクリニック	神戸市東灘区本山南町8-1-8



医師の異動のお知らせ

退職・転出 | 8月～11月

退職・転出年月日	診療科名	補職名	氏名	退職・転出年月日	診療科名	補職名	氏名
2024.8.31	脳神経外科	専攻医	富田ひかり	2024.9.30	整形外科	専攻医	中西 優斗
2024.9.30	外科	医長	鳥口 寛		救急科	専攻医	井原 勇人
	総合内科	専攻医	樟 莉子		救急科	専攻医	池田 翔太
	総合内科	専攻医	佐々木太一		救急科	専攻医	稲葉 和真
	糖尿病・内分泌内科	専攻医	井上 幹造		麻酔科	専攻医	山田 勝平
	腎臓内科	専攻医	村田 幹		麻酔科	専攻医	米澤 脩汰
	血液内科	専攻医	水口 昌俊		外科	専攻医	石川 佳奈
	膠原病・リウマチ内科	専攻医	岡本 樹		呼吸器外科	専攻医	宗田 桃子
	精神・神経科	専攻医	金田 浩平		心臓血管外科	専攻医	井上 瑛介
	小児科・新生児科	専攻医	池田(清益)茉穂		乳腺外科	専攻医	岡田玖瑠美
	小児科・新生児科	専攻医	寺尾 元	2024.10.31	産婦人科	医長	三木 通保
	病理診断科	専攻医	政岡 亜実		麻酔科	任期付	宮沢 嘉英
	脳神経外科	専攻医	徳田 匡紀	2024.11.30	麻酔科		西川 貴史
	脳神経外科	専攻医	羽生 敬		救急科・総合内科	専攻医	林 瑠星
	脳神経外科	専攻医	横地 泰徳		麻酔科	専攻医	前田 拓哉
	整形外科	専攻医	下山 貴幸		麻酔科	専攻医	岡野 宏哉
	整形外科	専攻医	井尻 健太				

採用者 | 9月～12月

退職・転出年月日	診療科名	補職名	氏名	退職・転出年月日	診療科名	補職名	氏名
2024.9.1	麻酔科	任期付	三宅 悠介	2024.9.30	脳神経外科	専攻医	山本 健太
2024.10.1	呼吸器内科	任期付	神戸 寛史		脳神経外科	専攻医	富田ひかり
	外科	医長	岡村 裕輔		整形外科	専攻医	久保田雅哉
	産婦人科	医長	小山瑠梨子		整形外科	専攻医	宇田 優樹
	総合内科	専攻医	小松 加奈		整形外科	専攻医	松本 知丈
	総合内科	専攻医	鳥居 融		救急科	専攻医	大橋孝太郎
	総合内科	専攻医	山下 新菜		救急科	専攻医	工藤 溪奈
	循環器内科	専攻医	細野 将太		救急科	専攻医	山藤 宥輝
	脳神経内科	専攻医	外山 瑞葉		救急科	専攻医	橋本 雅史
	消化器内科	専攻医	今井明日香		麻酔科	専攻医	松田 龍太
	呼吸器内科	専攻医	矢野 翔平		外科	専攻医	小山 達也
	呼吸器内科	専攻医	井上 拓弥		外科	専攻医	高島 堯
	精神・神経科	専攻医	近藤 笙子	2024.11.1	呼吸器外科	専攻医	牛窪 樹飛
	小児科・新生児科	専攻医	木原 崇志		脳神経外科	専攻医	崎須賀 涼
	小児科・新生児科	専攻医	吉川健太郎	2024.12.1	麻酔科	専攻医	カイザー 柚花
	小児科・新生児科	専攻医	和田のどか		麻酔科	専攻医	村中 要公
	産婦人科	専攻医	宇田 佳代		麻酔科	専攻医	斉藤 成美
	病理診断科	専攻医	大谷 宗理				



神戸市立医療センター中央市民病院 100周年記念市民公開講座

～100年の絆で紡ぐ信頼の医療、次の100年に向けて～

講演1 長生きの秘訣、教えます ～心臓病のお話～

講師：神戸市立医療センター中央市民病院
循環器内科 医長 谷口 智彦

講演2 つらい痛みとさようなら 手・肘・肩の健康ケア講座

講師：神戸市立医療センター中央市民病院
整形外科 医長 竹内 久貴



記念講演
元ラグビー日本代表
大畑 大介氏

定員
400名

先着順で定員に
なり次第受付終了

日時

令和7年 2月15日 土 14:00-16:00

会場

神戸新聞松方ホール **入場無料**
(神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル4階)



- Webで申し込む
左の二次元コードまたは下記アドレスよりお申込みください。
<https://forms.gle/kNQEBRaC6xYUmk437>
- FAXで申し込む
裏面の「FAX申込書」にてお申込みください。

令和6年12月9日(月) 申込受付開始



■お問い合わせ 神戸市立医療センター 中央市民病院 患者総合支援センター (平日9時～17時)
TEL: 078-302-4321 Mail: renkei@kcho.jp

主催 神戸市立医療センター中央市民病院 / 後援 神戸市

患者さんをご紹介いただく際は…

FAX・インターネットでご予約ください

地域の医療機関の先生方からご紹介いただく患者さんの待ち時間を短縮するため、診察・検査の紹介予約を受付しています。紹介予約の方は予約時間どおり受診できるように努めておりますので、ぜひご利用ください。

FAX予約

- FAX予約申込時、申込書に診療経過等の記載がなくてもFAX予約は可能です。診療情報はその日のうちに記入し、再送信してください。
- 患者さんのご都合がはっきりしない場合でも仮予約をお取りください。仮予約後、患者さんご自身で予約変更が可能です。患者総合支援センターへ電話で連絡をしていただくようお願いください。

手順

1. 「FAX予約申込書」を当院患者総合支援センターへ送信してください。【簡易手続き記載例を参照ください】
 - 1) 「FAX予約申込書」様式の上段赤枠のみ記載ください（検査依頼については専用の検査様式をご使用ください）。
 - 2) 後ほど予約申込日中に下段青枠に追記してから再送ください。
2. 「予約報告書（上段）兼初診予約券（下段）」を返信します。
3. 「予約報告書（上段）」は貴院で保管し、「初診予約券（下段）」および「診療情報提供書（紹介状）」を患者さんに手渡してください。

神戸市立医療センター中央市民病院 患者総合支援センター FAX078-302-2251 TEL078-302-6031

1 赤枠のみ記入して送信してください。

2 お手すきの際に青枠に追記して再送してください。もしくは、貴院様式の診療情報提供書を追加送信してください。

インターネット紹介予約

インターネットで診察予約申込と予約券出力が可能です。
 当院ホームページ > 医療関係者の方へ
 > 一般外来紹介予約 > インターネット紹介予約はこちら

PET/CT検査依頼のご案内とお願い

放射線技術部

● 当院のPET/CT検査について

2017年11月より、地域医療機関の先生方からのPET/CT検査依頼に対応可能となりました。

当院は、サイクロトロンを備えており、PET薬剤（FDG）は、院内で合成し、品質検定に合格したものを使用しています。そのため、体重により適正量のPET薬剤を投与することが可能となり、安定した画像の提供を行っています。

2018年3月に「5リング搭載高感度型PET/CT装置（GE Healthcare社製 Discovery IQ）」が導入され、従来の装置に比べ、低被ばくで高画質の検査が可能となりました。

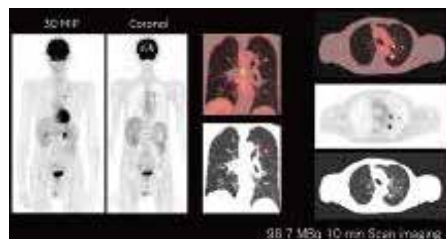
また現在、検査予約待ちがほぼない状態で、患者様のご希望に添った検査予約が可能となっております。



● 地域医療機関の先生方へのお願い

FDG-PET/CT検査は、悪性腫瘍（早期胃がんを除き、悪性リンパ腫を含む）において保険の適用となり、検査目的は病期診断、再発・転移診断となっております。悪性腫瘍の疑いなどの良悪性鑑別、治療効果判定（悪性リンパ腫を除く）は、保険の適用外となりますのでご注意ください。

また、他の画像診断により病期診断、再発・転移診断が確定できない場合に限り、FDG-PET/CT検査を受けられる前に、必ずCT・MRIの画像検査を施行し、画像データを持参していただきますようお願いいたします。



地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
 Kobe City Medical Center General Hospital

〒650-0047 神戸市中央区港島南町2-1-1

代表 Tel : 078-302-4321 Fax : 078-302-7537
 FAX予約 Tel : 078-302-6031 Fax : 078-302-2251
 患者総合支援センター Tel : 078-302-4321(代) Fax : 078-302-4424

緊急受診・転院のお問い合わせは

専用ダイヤル：078-302-5172

【平日 9:00~17:00】 患者総合支援センター
 【上記以外の時間帯】 救急外来受付

脳卒中ホットライン
078-302-8030

産科ホットライン
078-302-5104

胸痛ホットライン
078-302-6162

小児科ホットライン
078-302-5343